



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月14日

上場会社名 クレアホールディングス株式会社
 コード番号 1757 URL <http://www.crea-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 黒田 高史
 (氏名) 岩崎 智彦
 TEL 03-5775-2100

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,813	4.6	△314	—	△311	—	△319	—
2019年3月期第3四半期	1,733	109.1	△27	—	△41	—	△70	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 △319百万円 (—%) 2019年3月期第3四半期 △70百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	△2.25	—
2019年3月期第3四半期	△0.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	2,449	730	29.8	4.77
2019年3月期	2,592	602	23.2	4.88

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 730百万円 2019年3月期 600百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,070	△9.3	△62	—	△62	—	△107	—	△0.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	153,094,156 株	2019年3月期	123,094,156 株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	11,524 株	2019年3月期	11,091 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	142,173,760 株	2019年3月期3Q	117,271,411 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、緩やかな回復基調を継続しているものの、米中通商問題が世界経済に与える影響等から、先行き不透明な状況が続いています。建設業界におきましては、金融機関の融資姿勢の変化に伴う賃貸住宅建築の減少等により、新設住宅着工戸数は軟調な動きを示しており、建築物着工床面積（民間非居住）についても、店舗、工場カテゴリー等が対前年で減少傾向の中、全体では弱含む状況にあります。

こうした情勢下において、売上高は、1,813,466千円と前第3四半期連結累計期間と比べ79,898千円の増加（4.6%）、営業損失は、314,900千円と前第3四半期連結累計期間と比べ287,695千円の損失の増加、経常損失は、311,348千円と前第3四半期連結累計期間と比べ269,715千円の損失の増加、親会社株主に帰属する四半期純損失は、319,706千円と前第3四半期連結累計期間と比べ249,000千円の損失の増加となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

I 建設事業

当セグメントにおきましては、売上高は109,618千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して18,751千円（△14.6%）の減少、セグメント損失（営業損失）は39,237千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して5,933千円の損失の減少となりました。尚、当該業績に至った主な要因は以下のとおりであります。

イ. リフォーム・メンテナンス工事

リフォーム・メンテナンス工事におきましては、売上高は27,649千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して5,197千円（23.2%）の増加、セグメント利益（営業利益）は2,861千円（前第3四半期連結累計期間はセグメント損失△3,455千円）となりました。

当該業績に至った主な要因は、前連結会計年度に引合い・受注があった顧客からのリピート需要を獲得したこと、前第3四半期連結累計期間に計上がなかった業務提携業者からの紹介報酬（手数料収入）を当第3四半期連結累計期間において計上したことなどによるものです。

ロ. 給排水管設備工事

給排水管設備工事におきましては、売上高は67,589千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して8,009千円（△10.6%）の減少、セグメント損失（営業損失）は2,181千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して2,700千円の利益の減少となりました。

当該業績に至った主な要因は、設備工事の完成工事高が前第3四半期連結累計期間と比較して58.9%増加したものの、更生工事の完成工事高が94.4%減少したことなどによるものです。

ハ. 太陽光事業

太陽光事業におきましては、当第3四半期連結累計期間においては売上高はありませんでした。また、セグメント損失（営業損失）は3,300千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して2,435千円と損失が増加しております。

当該業績に至った主な要因は、太陽光発電施設建設事業を行うための権利、残り1案件分の権利売却について、今後の売却の可能性、収益性などを総合的に勘案し、断念したためです。

ニ. 建設工事業

建設工事業におきましては、売上高は14,379千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して15,939千円（△52.6%）の減少、セグメント損失（営業損失）は36,618千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して4,752千円の損失の減少となりました。

当該業績に至った主な要因は、当第3四半期連結累計期間において新築工事の売上がなく、土木・内装関連工事の売上計上にとどまったためであります。

II 不動産事業

当セグメントにおきましては、売上高は294,265千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して279,360千円（1874.3%）の増加、セグメント損失（営業損失）は288,344千円と前第3四半期連結累計期間と比較して292,760千円の損失の増加となりました。

当該業績に至った主な要因は、東京都渋谷区のエンターテインメント施設を対象とする不動産賃貸事業を進める(株)S・U・Eへの匿名組合出資を行い、当該匿名組合が連結対象となったことから、事業立ち上げ期の本不動産賃貸事業の業績の影響を受けたためであります。また、当社子会社であるクレア(株)が所有していた販売用不動産の売却と、売却による差損が発生したためであります。

III 投資事業

当セグメントにおきましては、売上高はありませんでした。（前第3四半期連結累計期間においても当該事業の売上高はありませんでした。）また、セグメント損失（営業損失）は2千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して277千円の損失の減少となりました。

当該業績に至った主な要因は、投資事業を活性化させるため、貸金以外の事業の調査等に注力したためであります。

IV オートモービル関連事業

当セグメントにおきましては、売上高は51,985千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して7,088千円の増加(15.8%)、セグメント損失(営業損失)は6,488千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して11,770千円の損失の減少となりました。

当該業績に至った主な要因は、国内で展開した最先端の省燃費モデル(新規格品)の認知が十分に進んでいないことから、国内売上高が前第3四半期連結累計期間と比較して18.3%減少したものの、自社ブランドオイル「RED SEED」の海外向け商品の販売が前連結会計年度第4四半期に再開したためであります。

V コスメティック事業

当セグメントにおきましては、売上高は479,492千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して542,719千円の減少(△53.1%)、セグメント利益(営業利益)は269,860千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して36,052千円の利益の減少(△11.8%)となりました。

当該業績に至った主な要因は、コスメティック商品販売業務において、カラーコンタクトレンズの新色投入による大幅な売上増があった前第3四半期連結累計期間と比較して売上高が減少したものの、美容関連広告業務及び美容機器の販売・保守業務を行っているアルトルイズム(株)にて底堅く実績を積み上げているためであります。

VI 飲食事業

当セグメントにおきましては、売上高は533,607千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して10,422千円の増加(2.0%)、セグメント損失(営業損失)は40,134千円となり、前第3四半期連結累計期間と比較して17,543千円の損失の減少となりました。

当該業績に至った主な要因は、店舗リニューアル(ブランド変更を含む)後の集客の確保、店舗運営の効率化等に取り組んでいるためであります。

VII エンターテインメント事業

前連結会計年度より「エンターテインメント事業」を新たに報告セグメントとして追加しております。エンターテインメント事業では、スポーツ選手・タレントのマネジメント・プロモート業務、イベントの企画・運営、広告代理店業務等を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、当セグメント売上高は344,496千円、セグメント利益(営業利益)は19,130千円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は2,449,578千円となり、前連結会計年度末と比較して143,249千円の減少(△5.5%)となりました。

(資産)

流動資産は、1,815,277千円となり、前連結会計年度末と比較して349,737千円の減少(△16.2%)となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金119,201千円の減少、販売用不動産253,695千円の減少、短期貸付金298,369千円の減少などによるものであります。

固定資産は、634,301千円となり、前連結会計年度末と比較して206,488千円の増加(48.3%)となりました。この主な要因は、建物及び構築物(純額)125,606千円の増加、機械及び装置(純額)48,006千円の増加、差入保証金62,993千円の増加などによるものであります。

(負債)

流動負債は、1,515,085千円となり、前連結会計年度末と比較して703,420千円の増加(86.7%)となりました。この主な要因は、1年以内償還予定の新株予約権付社債775,000千円の増加、買掛金102,405千円の減少などによるものであります。

固定負債は、203,667千円となり、前連結会計年度末と比較して975,122千円の減少(△82.7%)となりました。この主な要因は、新株予約権付社債775,000千円の減少、長期借入金196,831千円の減少などによるものであります。

(純資産)

純資産は、730,826千円となり、前連結会計年度末と比較して128,453千円の増加(21.3%)となりました。この主な要因は、資本金225,000千円の増加、資本剰余金225,000千円の増加、利益剰余金319,706千円の減少などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月15日の「2019年3月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	397,957	618,668
受取手形及び売掛金	368,210	249,008
完成工事未収入金	7,057	15,630
商品及び製品	27,195	25,404
原材料及び貯蔵品	8,967	16,263
販売用不動産	253,695	-
未成工事支出金	3,942	1,111
仕掛販売用太陽光設備	3,300	-
前渡金	656,907	718,849
未収入金	840,843	827,494
短期貸付金	319,139	20,770
その他	105,098	136,637
貸倒引当金	△827,300	△814,562
流動資産合計	2,165,014	1,815,277
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	116,491	250,275
減価償却累計額	△53,014	△61,192
建物及び構築物 (純額)	63,476	189,082
機械及び装置	16,098	67,243
減価償却累計額	△14,670	△17,809
機械及び装置 (純額)	1,427	49,434
車両運搬具	15,087	15,435
減価償却累計額	△11,949	△13,497
車両運搬具 (純額)	3,137	1,938
工具、器具及び備品	32,966	35,433
減価償却累計額	△27,025	△28,981
工具、器具及び備品 (純額)	5,940	6,451
リース資産	22,392	22,392
減価償却累計額	△18,038	△20,837
リース資産 (純額)	4,354	1,555
その他	1,088	1,256
有形固定資産合計	79,425	249,718
無形固定資産		
のれん	170,187	139,859
その他	7,901	8,171
無形固定資産合計	178,089	148,030
投資その他の資産		
破産更生債権等	2,105,028	2,105,028
差入保証金	30,106	93,099
長期貸付金	120,000	111,000
その他	20,191	32,452
貸倒引当金	△2,105,028	△2,105,028
投資その他の資産合計	170,297	236,551
固定資産合計	427,813	634,301
資産合計	2,592,827	2,449,578

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	12,607	18,323
買掛金	273,948	171,542
1年内返済予定の長期借入金	55,859	33,061
1年内償還予定の新株予約権付社債	-	775,000
未払金	102,982	119,736
前受金	98,319	127,921
未払法人税等	13,955	13,660
未払消費税等	32,405	28,494
賞与引当金	1,750	-
受注損失引当金	150,000	150,000
その他	69,837	77,344
流動負債合計	811,665	1,515,085
固定負債		
新株予約権付社債	775,000	-
長期借入金	306,298	109,467
長期預り保証金	32,360	24,090
退職給付に係る負債	1,989	1,995
完成工事補償引当金	26,118	25,885
その他	37,022	42,229
固定負債合計	1,178,790	203,667
負債合計	1,990,455	1,718,752
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,219,860	9,444,860
資本剰余金	2,458,466	2,683,466
利益剰余金	△11,072,132	△11,391,839
自己株式	△5,655	△5,661
株主資本合計	600,539	730,826
新株予約権	1,833	-
純資産合計	602,372	730,826
負債純資産合計	2,592,827	2,449,578

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	1,733,568	1,813,466
売上原価	992,242	1,049,196
売上総利益	741,325	764,270
販売費及び一般管理費	768,530	1,079,170
営業損失(△)	△27,204	△314,900
営業外収益		
受取利息	68	6,957
受取配当金	200	200
貸倒引当金戻入額	1,258	3,252
雑収入	7,682	8,465
営業外収益合計	9,209	18,876
営業外費用		
支払利息	5,883	4,376
支払手数料	7,407	8,502
株式交付費	9,200	1,719
雑損失	1,146	725
営業外費用合計	23,637	15,325
経常損失(△)	△41,633	△311,348
特別利益		
貸倒引当金戻入額	-	17,961
新株予約権戻入益	-	1,833
契約解除益	4,777	-
特別利益合計	4,777	19,794
特別損失		
減損損失	12,673	-
その他	4,296	-
特別損失合計	16,969	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△53,824	△291,554
法人税、住民税及び事業税	9,906	19,011
法人税等調整額	6,973	9,141
法人税等合計	16,880	28,152
四半期純損失(△)	△70,705	△319,706
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△70,705	△319,706

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純損失(△)	△70,705	△319,706
四半期包括利益	△70,705	△319,706
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△70,705	△319,706
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

当社グループは、前連結会計年度まで継続的に当期純損失を計上しており、当第3四半期連結累計期間におきましても319,706千円の四半期純損失を計上いたしました。また、営業キャッシュ・フローにつきましては、マイナスの状況が継続しておりました。当社グループは、これら継続する当期純損失の状況を改善すべく事業再構築と企業価値の向上ならびに管理体制の強化に向けて取り組んでおりますが、当第3四半期連結累計期間において四半期純損失の状況を改善するまでには至りませんでした。

当該状況が改善されない限り、当社グループが事業活動を継続するために必要な資金の調達が困難となり、債務超過に陥る可能性が潜在しているため、当社グループには継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

四半期連結財務諸表提出会社である当社は、当該状況を解消、改善すべく、以下のとおり対応してまいります。

当社グループは、建設事業の再建、事業の拡大・事業の再構築を行っており、当社グループ全体の事業成長と財務体質の改善を目指しております。

建設工事業では、大規模な工事の請負を含めて顧客ニーズに幅広く対応し、また、当社グループ内に「土地の確保・開発」から、「建物等の建設」、完成後の「不動産販売、運用・管理」、「リフォーム・メンテナンス」に至る一貫した機能を構築することで、収益の拡大に取り組んで参ります。

不動産事業では、東京オリンピックに向けて建設・不動産業界が活発化する中、国内全域にわたって都市開発・建設事業を始めとする不動産開発案件、売却益を狙った販売用不動産の取得・販売や、利回り等の収益性不動産の取得・ファシリティマネジメント等、複数の不動産プロジェクトを進めるだけでなく、他社との共同事業にも積極的に参画して参ります。

リフォーム・メンテナンス工事では、当社グループの顧客総数を生かした巡回営業、他社との業務提携を生かしたアフターサービス展開を図って参ります。

給排水管設備工事では、定期的に排水管診断、衛生診断等を行う診断収入の安定化を図り、大規模工事や一時的な小規模工事についても過去の工事実績を生かした営業展開を図って参ります。

オートモービル関連事業では、環境性能重視の国内マーケットの潮流に対応した環境配慮型オイル製品の強化、海外ビジネスの拡充、商流・販売システムの拡充に向けたアライアンスの構築等を進めて参ります。

コスメティック事業では、コスメティック商品の大規模小売販売店への販売のほか、美容機器の販売・保守や、美容関連広告を行うことで、収益の拡大に取り組んで参ります。

飲食事業では、ラーメン店舗の経営、ラーメン食材の製造等を拡大し、店舗の開発やリニューアルによる集客の確保、食材の販売先の開拓を積極的に進めて参ります。

エンターテインメント事業では、スポーツ選手・タレントのマネジメント・プロモート業務、イベントの企画・運営、広告代理店業務等の各業務の強化を図り、特にイベント企画・運営については、東京オリンピック前後に高まると見込まれる需要の取り込みを含め、地域や企業と連携しつつ積極的に展開して参ります。

しかしながら、全ての計画が必ずしも実現するとは限らないことにより、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年7月5日付で第三者割当増資による払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が225,000千円、資本準備金が225,000千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が9,444,860千円、資本準備金が2,683,466千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	建設事業	不動産事業	投資事業	オートモービル関連事業	コスメティック事業	飲食事業	合計
売上高							
外部顧客への売上高	128,369	14,904	-	44,896	1,022,211	523,185	1,733,568
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	128,369	14,904	-	44,896	1,022,211	523,185	1,733,568
セグメント利益又は損失(△)	△45,171	4,416	△279	△18,258	305,913	△57,678	188,941

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	188,941
セグメント間取引消去	-
のれんの償却額	△22,418
全社費用(注)	△193,728
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△27,204

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社管理部門に係る一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」セグメントにおきまして、収益性の低下により帳簿価額を回収可能価額まで減額した結果、12,673千円の減損損失を計上しております。

なお、当該事象による減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては12,673千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							
	建設事業	不動産事業	投資事業	オートモービル関連事業	コスメティック事業	飲食事業	エンターテインメント事業	合計
売上高								
外部顧客への売上高	109,618	294,265	-	51,985	479,492	533,607	344,496	1,813,466
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	109,618	294,265	-	51,985	479,492	533,607	344,496	1,813,466
セグメント利益又は損失(△)	△39,237	△288,344	△2	△6,488	269,860	△40,134	19,130	△85,216

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△85,216
セグメント間取引消去	-
のれんの償却額	△30,328
全社費用(注)	△199,355
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△314,900

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社管理部門に係る一般管理費であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において新たにエンターテインメント事業を開始し、量的にも重要性が増しているため、前連結会計年度末より「エンターテインメント事業」を報告セグメントに追加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

当社グループは、前連結会計年度まで継続的に当期純損失を計上しており、当第3四半期連結累計期間におきましても319,706千円の四半期純損失を計上いたしました。また、営業キャッシュ・フローにつきましては、マイナスの状況が継続しておりました。当社グループは、これら継続する当期純損失の状況を改善すべく事業再構築と企業価値の向上ならびに管理体制の強化に向けて取り組んでおりますが、当第3四半期連結累計期間において四半期純損失の状況を改善するまでには至りませんでした。

当該状況が改善されない限り、当社グループが事業活動を継続するために必要な資金の調達が困難となり、債務超過に陥る可能性が潜在しているため、当社グループには継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

四半期連結財務諸表提出会社である当社は、当該状況を解消、改善すべく、以下のとおり対応してまいります。

当社グループは、建設事業の再建、事業の拡大・事業の再構築を行っており、当社グループ全体の事業成長と財務体質の改善を目指しております。

建設工事業では、大規模な工事の請負を含めて顧客ニーズに幅広く対応し、また、当社グループ内に「土地の確保・開発」から、「建物等の建設」、完成後の「不動産販売、運用・管理」、「リフォーム・メンテナンス」に至る一貫した機能を構築することで、収益の拡大に取り組んで参ります。

不動産事業では、東京オリンピックに向けて建設・不動産業界が活発化する中、国内全域にわたって都市開発・建設事業を始めとする不動産開発案件、売却益を狙った販売用不動産の取得・販売や、利回り等の収益性不動産の取得・ファシリティマネジメント等、複数の不動産プロジェクトを進めるだけでなく、他社との共同事業にも積極的に参画して参ります。

リフォーム・メンテナンス工事では、当社グループの顧客総数を生かした巡回営業、他社との業務提携を生かしたアフターサービス展開を図って参ります。

給排水管設備工事では、定期的に排水管診断、衛生診断等を行う診断収入の安定化を図り、大規模工事や一時的な小規模工事についても過去の工事実績を生かした営業展開を図って参ります。

オートモビル関連事業では、環境性能重視の国内マーケットの潮流に対応した環境配慮型オイル製品の強化、海外ビジネスの拡充、商流・販売システムの拡充に向けたアライアンスの構築等を進めて参ります。

コスメティック事業では、コスメティック商品の大規模小売販売店への販売のほか、美容機器の販売・保守や、美容関連広告を行うことで、収益の拡大に取り組んで参ります。

飲食事業では、ラーメン店舗の経営、ラーメン食材の製造等を拡大し、店舗の開発やリニューアルによる集客の確保、食材の販売先の開拓を積極的に進めて参ります。

エンターテインメント事業では、スポーツ選手・タレントのマネジメント・プロモート業務、イベントの企画・運営、広告代理店業務等の各業務の強化を図り、特にイベント企画・運営については、東京オリンピック前後に高まると見込まれる需要の取り込みを含め、地域や企業と連携しつつ積極的に展開して参ります。